

「高松第一学園」 視察研修報告



義務教育学校とは

学校教育法の改正により
2016年（平成28年度）に
新設された新しい学校教育制度

小学校課程から中学校課程までの
義務教育を一貫して行う学校



高松市の学校統合の背景

- ① 児童生徒数の減少と
学校規模の格差の広がり
- ② 学校施設の耐震性の懸念と老朽化



「高松市小中学校適正配置等審議会」を
設置し、小中学校の適正配置等を諮問

審議会の答申

現状調査、先進地の状況視察など、約2年間に亘る審議を重ね、H16年8月に「答申」がまとめられる。



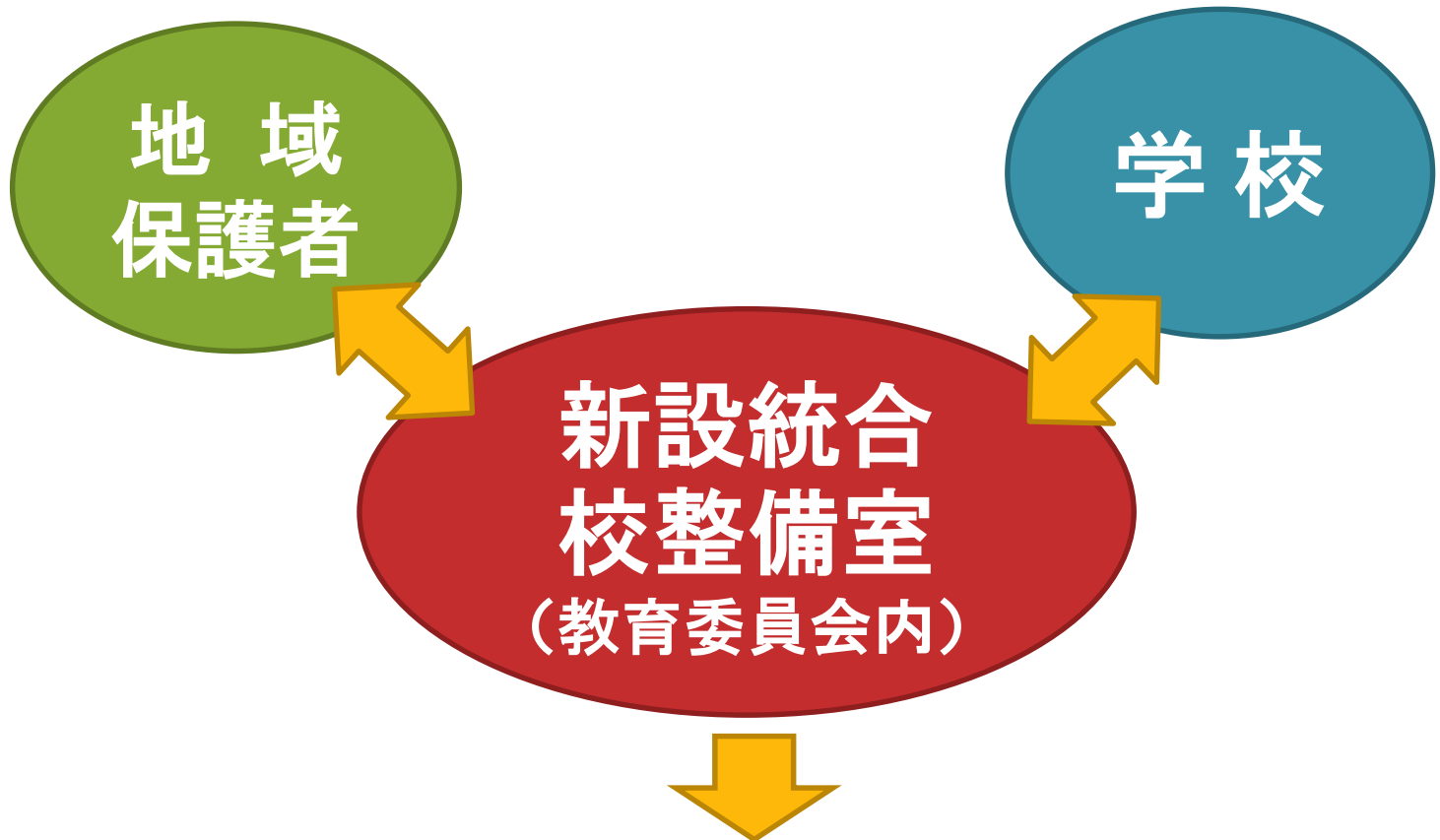
既存の学校敷地の広さや、学校の位置、通学距離等を配慮した、統合による新しい学校づくり提言

統合の対象となった小中学校

答申をふまえ、2中学校及び3小学校
を統合し、香川県初の
「施設一体型小中一貫教育校」を整備

いずれも輝かしい歴史ある伝統校
良き歴史伝統を引き継ぎながら、
これからの時代にふさわしく、地域に
愛される学校づくりを目指す

新設統合校整備室の設置



「新設統合校整備室だより」17回発行

「新しい学校づくり協議会」発足

- よりよい教育環境創出のため、約4年半に亘り合計32回開催
- 統合対象校のPTA会長、校区連合自治会代表者、学校長等19名で構成

施設整備部会	新設統合校の施設整備について検討
学校教育部会	小中一貫校や校訓などについて検討
学校運営部会	校名や校歌・校章、学校間の交流活動について検討

「新しい学校づくり協議会」経過

H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校の建設の進め方 ・教室等の配置 ・統合時期の検討 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>基本設計のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各室の設備 ・運動場の屋外環境 ・校名、愛称の公募 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>実施設計のまとめ 「高松第一学園」に決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事入札中止（応募者が一者で競争性が確保されなため） <p style="text-align: center;">↓</p> <p>統合時期の再検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校章校歌の協議 ・先行して統合する中学校の開校までに必要な事項決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館棟内の統合記念コミュニティ室の展示内容、部屋の利用、管理方法を協議

教育内容の検討経過

- 関係校の教職員、教育委員会で「小中一貫教育推進委員会」及び「小中カリキュラム研究会」設置

H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
高松市にとって、ふさわしい小中一貫校のあり方 義務教育9年間を見通した指導内容、シラビュ	基本方針策定し、指導内容や方法の特徴が示される ・ 小学校1年からの英語教育 ・ 高松みらい科 など	小中一貫校を段階的にスタートし、実践研究 ・ 一部教科担任制の実施 ・ 英語教育 ・ 高松みらい科 の実施	先行統合予定の中学校開校に向けて「高松第一小・中学校運営委員会」の設置 ・ 教育内容 ・ 学校運営方法決定	施設一体型小中一貫教育への円滑な接続に向けて、実践研究が進められた

建物の概要について

- 建築面積 約7,600㎡
- 校舎棟
 - ・ 鉄筋コンクリート造4階建
 - ・ 延床面積 14,488.75㎡
 - ・ 普通教室39、特別支援教室8
 - ・ 特別教室21、その他管理諸室ほか
- 体育館棟
 - ・ 鉄筋コンクリート造一部鉄骨3階建
 - ・ 延床面積 4,502.47㎡
 - ・ 小学校アリーナ、中学校アリーナ、柔剣道場
 - ・ プール、統合記念コミュニティ室、部室他
- 総事業費 約50億円



正門から見る校舎棟と体育館棟



空から見た全景

施設の特徴

【多目的スペース】

小中一体型のスケールメリットを活かし、可動式間仕切り採用で柔軟に活用



【教師ステーション】

児童生徒と教員とのコミュニケーションの場として活用





体育館棟と体育館内部



吹き抜けの階段と広々とした廊下

統合校であることの配慮

■ 統合記念・コミュニティ室の設置

- ・ 体育館棟に設置
- ・ 統合対象校の校旗や校訓を展示
- ・ 児童生徒と地域の方とのふれあいの場として活用



自然を体感できる環境整備

校舎全体を環境教材とし、自然環境の仕組みを体感できる環境整備



風力や太陽光の発電量が目で見てわかります

太陽光発電・風力発電



高松第一学園から

異学年交流や連携に様々な工夫をすることにより、中一ギャップは確実に解消

小中学生が一緒に学校生活をするることにより、思いやりの心が醸成される

留意点は、全職員が共通理解をするための時間の確保が必要

統合を進めるにあたり、保護者や地域住民の方に理解を得るため、十分な説明会や意見収集の場が必要

まとめ

開校までの6年間に亘り、保護者や地域住民の方へ粘り強い説明を重ねてこられた点は参考にするべきである

義務教育学校の設置は充実した学習環境を提供し、「教育のまち王寺」を実現する重要な施策として位置づけられており、今まで以上に理解を得るための努力が必要

王寺町議会としては、「義務教育学校の設置検討調査研究特別委員会」を設置し、更に調査研究を進める